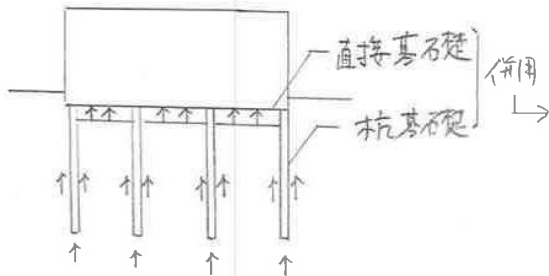


# 平成26年 NO.23 杭基礎

1. パイルドラフト基礎 → 直接基礎として支持力はあるが、沈下が過大になる場合等に採用される
2. 杭長が異なる杭の負担水平力 → 杭径が同じであっても杭長に応じて負担する水平力は異なる値となる
3. 砂質地盤における杭の極限摩擦力度 → 大小関係は、場所打コンクリート杭 > 埋込め杭 > 打込め杭 となる
4. 応答変位法 → 地盤変位が小さく杭応力に影響を与えない場合を除いて、応答変位法による検討を行うことが望ましい

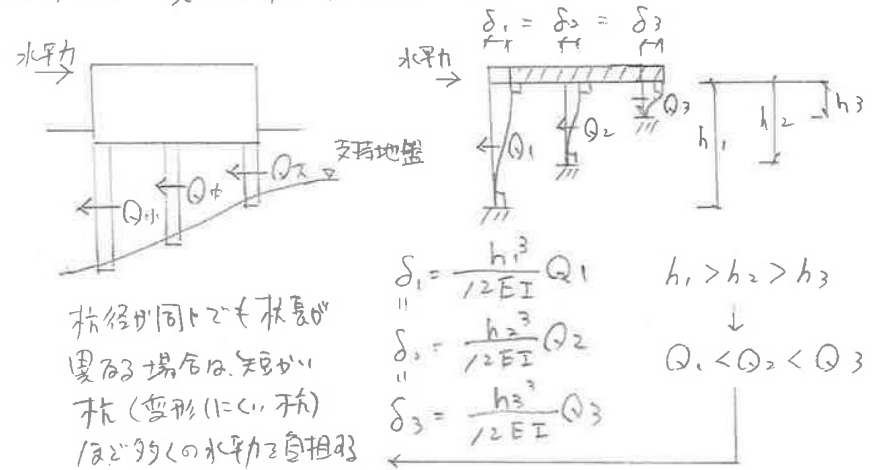
## 1. パイルドラフト基礎

→ 直接基礎(ラフト)と杭基礎が複合して  
両方で上部構造を支持するもの



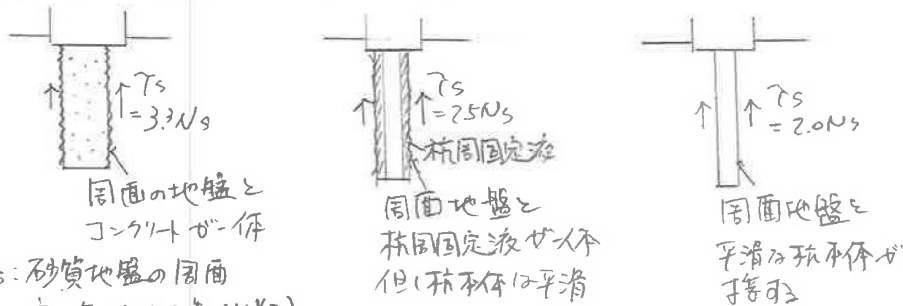
直接基礎として支持力が満足するが、基礎の変位・変形が上部構造の限界値を越えるときには杭(沈下低減杭)を併用して設計する

## 2. 杭長が異なる杭の負担水平力



## 3. 砂質地盤における杭の極限摩擦力度

場所打コンクリート杭 > 埋込め杭 > 打込め杭



$T_s$ : 砂質地盤の周面摩擦力度 (kN/m)  
 $N_s$ : 砂質地盤のN値

## 4. 応答変位法

